# STS と Sarcoma, NOS

株式会社エム・エル・ティー
野村耕二

## サクッとまとめ

- STS と Sarcoma, NOS はよく似るが、微妙に違う
- STS は広義で使われる場合とグレード分類に使われる狭義の場合がある

## STS とは

STS は Soft Tissue Sarcoma の略で、Soft Tissue Sarcoma（軟部組織肉腫）は軟部組織に発生する悪性間葉系腫瘍（軟部組織腫瘍、Soft Tissue Tumor: STT）と同義として使われる事が多いです。

では軟部組織とはどこを指すのでしょうか。人医の成書によると、「軟部組織は、細網内皮系*、グリア、および様々な実質的臓器の支持組織を除く、身体の非上皮性骨格外組織で、慣例的には末梢神経系も含まれる。」と定義されています。(1、2，3，4，5)

＊細網内皮系：リンパ管のリンパ洞，脾の静脈洞，肝臓の類洞，骨髄，副腎皮質などの細管の内腔面を覆う細胞よりなる組織でそれらの細胞は貪食能を有し，異物摂取，物質貯蔵，血液細胞造成，抗体形成などの作用を有する。

https://www.yodosha.co.jp/jikkenigaku/keyword/425.html

このように軟部組織は範囲が広く、そこから発生する腫瘍（STT）には非常に多くの物が含まれます。2020 年発行の人医の軟部組織腫瘍 WHO 分類第五版 (5) には以下の大項目があげられ、それらの下にさらに多数の腫瘍が記述されています。

1. Soft tissue tumours（軟部組織腫瘍）
   - ・Adipocytic tumours（脂肪細胞腫瘍）
   - ・Fibroblastic and myofibroblastic tumours（線維芽細胞腫瘍、筋線維芽細胞腫瘍）
   - ・So-called fibrohistiocytic tumours（いわゆる線維組織球系腫瘍）
   - ・Vascular tumours（脈管系腫瘍）
   - ・Pericytic (perivascular) tumours（血管周皮細胞（血管周囲）腫瘍）
   - ・Smooth muscle tumours（平滑筋腫瘍）
   - ・Skeletal muscle tumours（骨格筋腫瘍）
   - ・Gastrointestinal stromal tumour（消化管間質腫瘍：GIST）
   - ・Chondro-osseous tumours（軟骨骨腫瘍）
   - ・Peripheral nerve sheath tumours（末梢神経腫瘍）
   - ・Tumours of uncertain differentiation（分化不明腫瘍）

動物では軟部組織の定義は人と同じです。動物の STS は人の悪性軟部組織腫瘍（ＳＴＴ）の総称として使われる広義の STS と、獣医の診断やグレード分類および予後調査において一般的に使用される狭義の STS があります。

狭義の STS は

・末梢神経鞘腫瘍（腕神経叢を除く）
・線維肉腫
・粘液肉腫
・脂肪肉腫
・血管周囲壁腫瘍（血管周皮腫）
・多形肉腫（悪性線維性組織球腫［MFH］とも呼ばれる）
・悪性間葉種および未分化肉腫

の 7 種類で、組織球性肉腫、リンパ管肉腫、血管肉腫、滑膜細胞肉腫、平滑筋肉腫、横紋筋肉腫、口腔線維肉腫、腕神経叢末梢神経鞘腫瘍は除外されます。(6)

NOS とは

NOS は not otherwise specified の略で機械翻訳では「特に指定されない。特に指定のない。」などと訳されます。NOS は人医の ICD-O（国際疾病分類腫瘍学）で使用されている用語で、種々の腫瘍に疾病登録用のコードを付けた物の中で使われています。

ICD-O は全ての腫瘍に局在と形態の 2 つのコードを付けて分類する様に作られており、肺の新生物〈腫瘍〉を ICD-O の分類でコーディングすると

| | | |
|---|---|---|
| 肺の悪性新生物（癌腫など） | C34.9 | 8010/3 |
| 肺の転移性新生物（精巣からの転移性セミノーマなど） | C34.9 | 9061/6 |
| 肺の上皮内新生物（上皮内扁平上皮癌など） | C34.9 | 8070/2 |
| 肺の良性新生物（腺腫など） | C34.9 | 8140/0 |
| 肺の性状不詳の新生物（性状不詳のカルチノイドなど） | C34.9 | 8240/1 |

と記述され、Ｃで始まるコードが局在（臓器･部位、肺は C34.9）を表し、後ろの数字が形態（腫瘍の種類）を表すコードです。

ICD-O は現在、第 3.1 版(7) が Web 上で閲覧可能で、NOS という略号の説明には「他に何らの説明や記載のないもの，詳細不明（25 頁を参照)」と書かれています。25 頁には「ＮＯＳ（Not Otherwise Specified）の意味及び使用法」という記述があり、そこには以下の様に書かれています。

**********

ＮＯＳは，修飾語もしくは短い説明（phrase）を伴って，ICD-O に掲載されているいくつかの局在の用語及び形態の用語の後に表記される。索引中ではＮＯＳは最初に掲載され，その後に修飾語が掲載されている。ＮＯＳの付く用語のコードは以下の場合に使用する。

1．局在又は形態の用語が修飾語を伴っていない
2．局在又は形態の用語がどこにも現れていない形容詞を伴っている
3．用語が広い意味で使われている

たとえば表 12 は，索引中の「Adenocarcinoma（腺癌），ＮＯＳ」は後に多数の形容詞的記載がなされていて，それぞれ特有のコードを伴っていることを示している。

診断が「Adenocarcinoma（腺癌）」であれば，正しいコードは 8140/3「Adenocarcinoma（腺癌）ＮＯＳ」である。また，「Atypical adenocarcinoma（異型性腺癌）」のような診断名が用いられている場合，形容詞の Atypical（異型性）は，「Adenocarcinoma（腺癌）」を修飾する用語一覧表の中に現れて来ないので，コード番号は同じく 8140/3 である。このようにＮＯＳは，他の修飾語がどこかに記載されていることをコーダーやコード解読者に明示するために番号順リスト及び索引の両方に記されている。

表12．ＮＯＳコードの配置例

| | | |
|---|---|---|
| Adenocarcinoma | (see also Carcinoma) | 腺癌（癌腫も参照） |
| M-8140/3 | NOS | ＮＯＳ |
| M-8140/6 | NOS, metastatic | ＮＯＳ，転移性 |
| M-8280/3 | acidophil | 好酸性 |
| M-8550/3 | acinar | 腺房 |
| M-8550/3 | acinic cell | 腺房細胞 |
| M-8370/3 | adrenal cortical | 副腎皮質 |
| M-8251/3 | alveolar | 肺胞 |
| M-8244/3 | and carcinoid, combined | カルチノイドとの複合癌 |
| M-8560/3 | and epidermoid carcinoma, mixed | 類表皮癌との混合癌 |
| M-8560/3 | and squamous cell carcinoma, mixed | 扁平上皮癌との混合癌 |
| M-8401/3 | apocrine | アポクリン |
| M-8147/3 | basal cell | 基底細胞 |
| M-8300/3 | basophil | 好塩基性 |
| M-8160/3 | bile duct | 胆管 |
| M-8250/3 | bronchiolar | 細気管支 |

**********

文章だけではよく分かりませんが、特定の用語（表 12 の場合は腺癌）以外に特に指定することが無い場合（詳細不明）に使う用語と考えて良いと思います。

「8800／3 肉腫，ＮＯＳ、Sarcoma，NOS」は肉腫ということ以外に何もわからない物を指しています。NOS は様々な用語に付加して使われ、良性腫瘍にも使われます。

例：

880　軟部組織腫瘍及び肉腫，NOS

8800／0　軟部組織腫瘍，良性

8800／3　肉腫，NOS
軟部組織肉腫
軟部組織腫瘍，悪性
間葉性腫瘍，悪性

8800／9　肉腫症，NOS

801－804　上皮性新生物，NOS

8010／0　上皮性腫瘍，良性

8010／2　上皮内癌，NOS

8010／3　癌腫，NOS
上皮性腫瘍，悪性

8010／6　癌腫，転移性，NOS
続発性癌

| 805－808　扁平上皮性新生物 | |
|---|---|
| 8050／0 | 乳頭腫，NOS（膀胱の乳頭腫M-8120／1を除く） |
| 8050／2 | 乳頭状上皮内癌 |
| 8050／3 | 乳頭状癌，NOS<br>［甲状腺癌では　8260／3］ |

「8050/0 乳頭腫、NOS」はどの部位に発生したか分からない乳頭腫、という事になります。

また、形態（腫瘍の種類）だけで無く、局在（発生部位）に対しても使われています。

例：

| 肝： | |
|---|---|
| ・NOS | C22.0 |
| ・～リンパ節 | C77.2 |
| ・～外胆管 | C24.0 |
| ・～管 | C24.0 |
| ・～小管 | C22.1 |
| ・～性，NOS | C22.0 |
| ・～内胆管 | C22.1 |
| ・～門リンパ節 | C77.2 |

病理組織診断名としての STS と Sarcoma, NOS

診断名が「肉腫、NOS（Sarcoma, NOS）」だった場合は、「肉腫である事は確実だが、それ以外は不明、な腫瘍」を差していることになります。

STS は先に述べたように、「軟部組織から発生する肉腫の総称」という広義の STS と「獣医領域で使われる 7 種類の腫瘍のどれか」という狭義の STS の 2 種類の意味があります。

STS は「肉腫、NOS」と同じ意味合いで使われる事が多いですが、狭義の STS として使われている場合と広義の STS で使われている場合があることに注意が必要です。

狭義の STS で使われている場合は、コメントに 7 種類の腫瘍のどれか（ひとつの場合と複数の場合あり）に該当する可能性があると記述されていると思います。

MLT では「肉腫」としか分からない症例に対して「起源不明の肉腫、sarcoma NOS（not otherwise specified）」という診断名を使用しています。

（「Sarcoma, NOS」を「起源不明肉腫」と日本語表記しているのは意訳です。）

参考資料

1. 現代病理学大系、第二十巻、1992 年、中山書店
2. Enzinger & Weiss's Soft Tissue Tumors, 7th ed、2020 年、Elsevier

3. 軟部腫瘍アトラス、1989 年第一版、文光堂
4. 整形外科・病理 悪性軟部腫瘍取扱い規約　第三版、2002 年、金原出版
5. Soft Tissue and Bone Tumours, WHO Classification of Tumours, 5th ed, 2020 年、WHO
6. Prognostic Factors for Cutaneous and Subcutaneous Soft Tissue Sarcomas in Dogs、Veterinary Pathology 48(1) 73-84, 2011
7. ICD-O（国際疾病分類腫瘍学）第 3.1 版
https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/96612/9789241548496-jpn.pdf?sequence=43&isAllowed=y

2024/01/10